

■ 吾野地区

大字名

坂石町分・坂石・吾野・上長沢
高山・北川・坂元・南川



【地区の面積及び人口・世帯数】

面積	3,460.0ha
人口	2,411人
世帯数	1,030世帯

※資料：統計はんのう

※人口、世帯数は、平成24年1月1日現在の住民基本台帳及び外国人登録



高麗川の源流



東郷公園のもみじ

■地区の現状と課題

- 地区の9割以上を森林が占める吾野地区は、幹線道路や山間部に点在する集落から形成され、山村の風景が広がっています。
- 多くがスギ、ヒノキなどの森林が占める地区ですが、林業の厳しい経営環境などにより、十分な手入れができないなど維持管理が不足している森林が増えつつあります。保水力の維持や土砂災害防止の観点から、森林の適切な維持管理や広葉樹への転換が求められています。
- 高麗川の源流を有しており、近年ではホタルが生息するなど、清流対策の効果がみられます。
- 生活排水処理対策のために合併処理浄化槽*の普及が進められていますが、単独処理浄化槽などの世帯もみられます。
- 河川敷でのヨシの繁茂により、川とのふれあいが減少しています。
- 伝統的なたたずまいを残す街並みや高山不動尊などの地域の資源が数多くあり、それらをめぐるハイキングコースが整備されています。多くの行楽客が訪れていますが、マナー向上により、ハイキングコース上のごみは減少しています。
- 林道沿いなど山間部を中心に不法投棄が問題となっており、対策が求められています。
- 自動車などを利用できない子どもや高齢者などの地域内の交通手段の確保が求められています。
- 地域の幹線道路である国道299号は、交通量の増加に伴い、大型車両による騒音や排気ガス、深夜の暴走行為が問題となっており、対策が求められています。
- ペットの飼い方などの問題があり、マナー向上の啓発が必要です。
- 大雨時の土砂崩れなど、自然災害への対応が求められています。
- サルやイノシシ、シカなどが、人里や農地まで侵入し作物などを荒らす被害が増えています。

■取り組むべきこと

- 森林を保全する。
 - ・林業の基盤整備や生産体制の強化などによる林業の振興、西川材のPR
 - ・森林や林業に対する理解を深めてもらうための森林体験教室等の実施・協力
 - ・森林の多面的機能*を重視した森林保全
- 清流保全を進める。
 - ・生活排水処理対策として合併処理浄化槽の設置の促進と水質保全に対する意識啓発
 - ・源流部としての積極的な取組を下流地域にPR
- 河川におけるヨシ対策の研究を行う。
- 伝統的な街並みを保全する。
- 不法投棄防止対策を進める。
- 幹線道路における騒音対策を進める。
 - ・関係機関と連携した取組の推進
- ペットの飼い方のマナーを向上させる。
- 自然災害への対応を推進する。
 - ・自主防災組織など自然災害に備えた体制の整備
 - ・土砂災害に対する防災訓練の実施
- 鳥獣害対策を推進する。
- 環境のための取組を推進する。

■地区で行われている環境を良くするための取組

- ハイキングコース脇の間伐、枝打ちの実施及び案内板の設置
- 魅力ある花いっぱい吾野道づくり事業の実施
- 地元の食材や木材を利用した品物の開発
- 高麗川源流保全事業の実施及び自然観察路の整備
- 中学生の自然体験学習の場の提供
- 自治会等による清掃活動の実施

■地区の現状と課題

- 東吾野地区は、山間に高麗川が流れ、その川沿いに国道や鉄道がはしり、集落が形成されています。ふれあい農園や西川材を使った木工工房などの地域資源があり、地域の文化を体験することができます。
- 多くがスギ、ヒノキなどの森林が占める地区ですが、林業の厳しい経営環境などにより、十分な手入れができないなど維持管理が不足している森林が増えつつあります。保水力の維持や土砂災害防止の観点から、森林の適切な維持管理や広葉樹への転換が求められています。
- 生活排水処理対策のために合併処理浄化槽*の普及が進められていますが、単独処理浄化槽などの世帯もみられます。
- 河川敷でのヨシの繁茂により、川とのふれあいが減少しています。
- 地域を流れる高麗川は、水量の減少や河川のコンクリート護岸などにより水辺環境が変化しています。また、地域で河川清掃活動をしているのですが、行楽客によるポイ捨てやバーベキューごみの置き去り問題があり、行楽客に対する意識啓発が必要です。
- 林道沿いなど山間部を中心に不法投棄が問題となっており、対策が求められています。
- 自動車等を利用できない子どもや高齢者などの地域内の交通手段の確保が求められています。
- 地域の幹線道路である国道 299 号は、交通量の増加に伴い、大型車両による騒音や排気ガス、深夜の暴走行為が問題となっており、対策が求められています。
- ペットの飼い方などの問題があり、マナー向上の啓発が必要です。
- 大雨時の土砂崩れなど、自然災害への対応が求められています。
- サルやイノシシ、シカなどが、人里や農地まで侵入し作物などを荒らす被害が増えています。

■取り組むべきこと

- 森林を保全する。
 - ・林業の基盤整備や生産体制の強化などによる林業の振興、西川材のPR
 - ・森林や林業に対する理解を深めてもらうための森林体験教室等の実施・協力
 - ・森林の多面的機能*を重視した森林保全
- 河川環境を保全する。
 - ・生活排水処理対策として合併処理浄化槽の設置の促進と水質保全に対する意識啓発
 - ・河川整備における生物の生息・生育環境への十分な配慮
- 河川におけるヨシ対策の研究を行う。
- 不法投棄防止対策を進める。
- 幹線道路における騒音対策を行う。
 - ・関係機関と連携した取組の推進
- ペットの飼い方のマナーを向上させる。
- 自然災害への対応を推進する。
 - ・自主防災組織など自然災害に備えた体制の整備
 - ・土砂災害に対する防災訓練の実施
- 鳥獣害対策を推進する。
- 環境のための取組を推進する。

■地区で行われている環境を良くするための取組

- 地域の情報を発信する「おらがんち」の発行
- 飯能市ホームページへの活動情報の掲載
- 地元食材を用いた食文化の伝承
- 文化遺産の講演会の開催
- 東吾野文化遺産条約に基づく活動
- 自治会等による清掃活動の実施

■ 原市場地区

大字名

原市場・下赤工・上赤工・赤沢・唐竹
中藤下郷・中藤中郷・中藤上郷・南

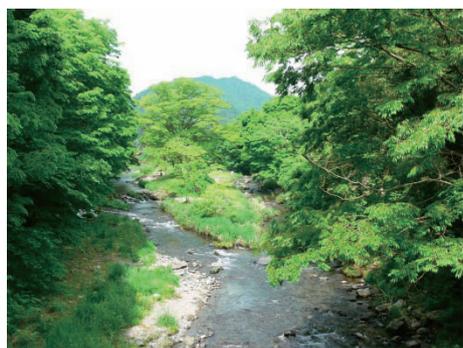


【地区の面積及び人口・世帯数】

面積	2,986.9ha
人口	8,440人
世帯数	3,218世帯

※資料：統計はんのう

※人口、世帯数は、平成24年1月1日現在の住民基本台帳及び外国人登録



水明橋上流の入間川



子の権現

■地区の現状と課題

- 原市場地区は、森林が多く、入間川や中藤川などの清流を有する地域です。幹線道路沿線の集落や傾斜地に、部分的な宅地開発がみられます。
- 多くがスギ、ヒノキなどの森林が占める地区ですが、林業の厳しい経営環境などにより、十分な手入れができないなど維持管理が不足している森林が増えつつあります。保水力の維持や土砂災害防止の観点から、森林の適切な維持管理や広葉樹への転換が求められています。
- 生活排水処理対策のために合併処理浄化槽*の普及が進められていますが、単独処理浄化槽などの世帯もみられます。
- 入間川の上流地域として、また、市民の飲料水の取水施設もあることから、生活排水処理など清流の保全に特に力が入れられています。しかし、行楽客がごみを捨てていくなどの問題もあります。
- ホテルの里づくりや花のあるまちづくりなど、地域独自のまちづくりが進められている一方で、子の権現や竹寺などの数多くの地域資源を活用したまちづくりも課題となっています。
- 河川敷でのヨシの繁茂により、川とのふれあいが減少しています。
- 林道沿いなど山間部を中心に不法投棄が問題となっており、対策が求められています。
- 利用者の減少により、路線バスの維持・確保が課題となっています。
- ペットの飼い方などの問題があり、マナー向上の啓発が必要です。
- 大雨時の土砂崩れなど、自然災害への対応が求められています。
- サルやイノシシ、シカなどが、人里や農地まで侵入し作物などを荒らす被害が増えています。

■取り組むべきこと

- 森林を保全する。
 - ・林業の基盤整備や生産体制の強化などによる林業の振興、西川材のPR
 - ・森林や林業に対する理解を深めてもらうための森林体験教室等の実施・協力
 - ・森林の多面的機能*を重視した森林保全
- 水道水源や豊かな水辺空間として清流を保全する。
 - ・生活排水処理対策として合併処理浄化槽の設置の促進と水質保全に対する意識啓発
 - ・「ホテル」をキーワードにした取組の充実
- 河川におけるヨシ対策の研究を行う。
- 不法投棄防止対策を進める。
- 公共交通を維持・確保するため、利用増進策を検討する。
- ペットの飼い方のマナーを向上させる。
- 自然災害への対応を推進する。
 - ・自主防災組織など自然災害に備えた体制の整備
 - ・土砂災害に対する防災訓練の実施
- 鳥獣害対策を推進する。
- 環境のための取組を推進する。

■地区で行われている環境を良くするための取組

- 四季を感じる歩こう会の実施
- ホテルの鑑賞会やカワニナの飼育及び放流等、「蛍の里づくり事業」の実施
- 原市場いきいき広場管理事業の実施
- 歩道沿いなどへ草花や花木を植栽・管理する花のあるまちづくり事業の実施
- 木の文化を伝える教材づくり事業の実施
- 自治会等による清掃活動の実施

■ 名栗地区

大字名
下名栗・上名栗



【地区の面積及び人口・世帯数】

面積	5,856.0ha
人口	2,216人
世帯数	938世帯

※資料：統計はんのう

※人口、世帯数は、平成24年1月1日現在の住民基本台帳及び外国人登録



弁天河原



ブナの原生林（ウノ田）

■地区の現状と課題

- 名栗地区は、面積の94%が山林であり、幹線道路沿線や山間部に集落が点在しています。
- 多くがスギ、ヒノキなどの森林が占める地区ですが、林業の厳しい経営環境などにより、十分な手入れができないなど維持管理が不足している森林が増えつつあります。保水力の維持や土砂災害防止の観点から、森林の適切な維持管理や広葉樹への転換が求められています。
- 入間川の源流域であり、河川の上流地域として清流を保全していくことが求められています。
- 生活排水処理対策のために合併処理浄化槽*の普及が進められていますが、単独処理浄化槽などの世帯もみられます。
- 河川敷でのヨシの繁茂により、川とのふれあいが減少しています。
- 棒の嶺やさわらびの湯などの地域資源を有しているため、多くの行楽客が訪れていますが、マナー向上により、ハイキングコース上のごみは減少しています。
- 林道沿いなど山間部を中心に不法投棄が問題となっており、対策が求められています。
- 地域の幹線道路では、交通量の増加に伴い、大型車両による騒音や排気ガス、深夜の暴走行為が問題となっており、対策が求められています。
- 利用者の減少により、路線バスの維持・確保が課題となっています。
- ペットの飼い方などの問題があり、マナー向上の啓発が必要です。
- 大雨時の土砂崩れなど、自然災害への対応が求められています。
- サルやイノシシ、シカなどが、人里や農地まで侵入し作物などを荒らす被害が増えています。

■取り組むべきこと

- 森林を保全する。
 - ・林業の基盤整備や生産体制の強化などによる林業の振興、西川材のPR
 - ・森林や林業に対する理解を深めてもらうための森林体験教室等の実施・協力
 - ・森林の多面的機能*を重視した森林保全
- 源流部として清流保全を進める。
 - ・生活排水処理対策として合併処理浄化槽の設置の促進と水質保全に対する意識啓発
 - ・良好な自然が残された源流部の沢の保全
- 河川におけるヨシ対策の研究を行う。
- 不法投棄防止対策を進める。
- 幹線道路における騒音対策を行う。
 - ・関係機関と連携した取組の推進
- 公共交通を維持・確保するため、利用増進策を検討する。
- ペットの飼い方のマナーを向上させる。
- 自然災害への対応を推進する。
 - ・自主防災組織など自然災害に備えた体制の整備
 - ・土砂災害に対する防災訓練の実施
- 鳥獣害対策を推進する。
- 環境のための取組を推進する。

■地区で行われている環境を良くするための取組

- 花木による景観づくりの実施
- ハイキングコースの整備及び散策コースへのベンチの設置
- 通学路へ西川材を活用した花壇を設置するなど、西川材を生かした地域づくりの実施
- 針葉樹や広葉樹の特性を生かした環境整備や森林体験イベントの実施
- 水生生物の観察や保護の実施
- ホテルの鑑賞会やカワニナの飼育及び放流等の実施
- 自治会等による清掃活動の実施